

1 人口及び世帯数

(1)人口の推移

平成26年10月1日現在の本県の人口は、192万4,556人(男92万3,619人、女100万937人)となっています。

これを過去の推移からみると、昭和45年の国勢調査以降ほぼ一貫して増加を続けてきましたが、平成17年をピークに、その後は減少傾向となっています。

平成22年の国勢調査から平成26年までの4年間では、人口は20,720人減少しており、その内訳では、出生数と死亡数の差である自然増減で18,610人減少し、転入者数と転出者数との差である社会増減で944人減少し、外国人が1,166人減少しています。

都道府県別将来推計人口(平成25年3月推計、国立社会保障・人口問題研究所)によると、平成52年には岡山県の人口は161万985人になると予測されており、人口が減少していく傾向は今後長期的に続くものと考えられます。

(2)年齢階級別人口

平成26年の人口を年齢3区分にしてみると、年少人口(0～14歳)は25万5,592人、生産年齢人口(15～64歳)は111万8,321人、老年人口(65歳以上)は53万4,604人で、県人口に占める割合はそれぞれ13.4%、58.6%、28.0%となっています。

全国の年齢3区分割合をみると、それぞれ12.8%、61.3%、26.0%となっており、岡山県は全国値と比べ高齢化が進んでいることがわかります。

また、平成17年の年齢3区分割合と比べると、年少人口は0.7ポイントの減少、生産年齢人口は、4.6ポイントの減少、老年人口は5.5ポイントの増加となっています。

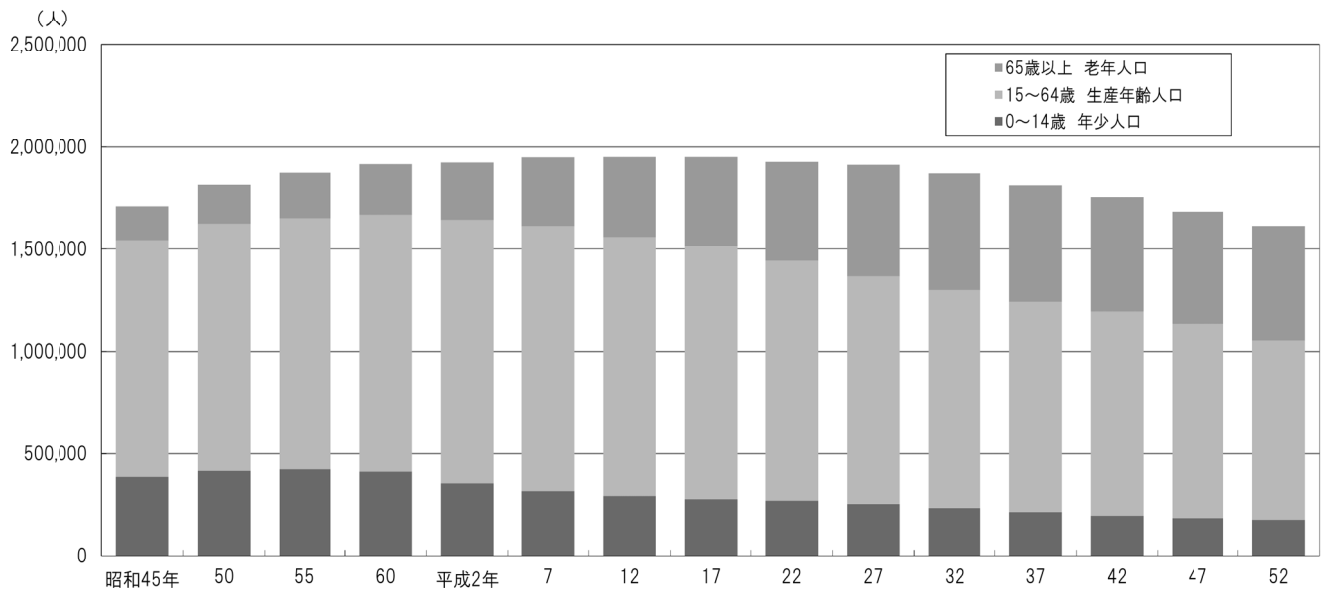
年少人口及び老年人口の割合は、平成37年にはそれぞれ11.7%、31.3%、平成52年には11.0%、34.8%と、より一層の少子化と高齢化が進むと予測されています。

(3)世帯数

平成22年10月1日現在の本県における一般世帯数は75万2,878世帯で、一世帯当たりの人員は2.52人となっています。

世帯数は、昭和45年以降増加を続けていますが、逆に、一世帯当たりの人員は減少しています。

図表 2-1-1-1 人口の推移及び年齢構成



資料：総務省統計局「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来人口推計」(平成25年3月推計)

図表 2-1-1-2 平成26年保健医療圏別人口構成(平成26年10月1日現在)

二次保健医療圏	総数	0~14歳 年少人口		15~64歳 生産年齢人口		65歳以上 老年人口	
		人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
県南東部保健医療圏	918,678	121,788	13.4	548,471	60.2	240,741	26.4
県南西部保健医療圏	710,536	97,840	13.9	411,130	58.5	194,355	27.6
高梁・新見保健医療圏	64,830	6,639	10.3	33,855	52.4	24,105	37.3
真庭保健医療圏	47,323	5,732	12.1	24,445	51.7	17,091	36.2
津山・英田保健医療圏	183,189	23,593	12.9	100,420	55.1	58,312	32.0
合計	1,924,556	255,592	13.4	1,118,321	58.6	534,604	28.0
全国	127,083,000	16,233,000	12.8	77,850,000	61.3	33,000,000	26.0

(資料：岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」、総務省統計局「人口推計」)

(注)総数は年齢不詳を含んでいるため、年齢別人口の計とは合致しない。

(注)構成比については、分母から年齢不詳を除いて算出している。

図表 2-1-1-3 一般世帯数の推移

区分	一般世帯数	一世帯当たりの人員
昭和45年	493,819	3.41
50年	537,829	3.32
55年	560,043	3.29
60年	582,128	3.24
平成 2年	607,668	3.11
7年	656,761	2.92
12年	689,733	2.77
17年	724,474	2.63
22年	752,878	2.52

(資料:総務省統計局「国勢調査」)

図表 2-1-1-4 平成22年保健医療圏別世帯数

二次保健医療圏	一般世帯数
県南東部保健医療圏	374,046
県南西部保健医療圏	266,296
高梁・新見保健医療圏	26,246
真庭保健医療圏	16,737
津山・英田保健医療圏	69,553
合計	752,878
全国	51,842,307

(資料:総務省統計局「平成 22 年国勢調査」)

(4)平均寿命

本県における平成22年の平均寿命は、男性79.77年、女性86.93年となっており、昭和45年と比較してみると、男性9.08年、女性10.56年延びています。

また、昭和45年以降、男性、女性とも図表 2-1-1-5 のとおり全国値を上回っています。

図表 2-1-1-5 平均寿命の推移

年次	男			女		
	全国	岡山県	順位	全国	岡山県	順位
昭和45年	69.31	70.69	5	74.66	76.37	1
50年	71.73	72.25	7	76.89	77.76	4
55年	73.35	74.21	7	78.76	79.78	2
60年	74.78	75.28	13	80.48	81.31	5
平成 2年	75.92	76.32	16	81.90	82.70	5
7年	76.38	77.03	14	82.85	83.81	6
12年	77.72	77.80	21	84.60	85.25	6
17年	78.56	79.22	11	85.52	86.49	4
22年	79.55	79.77	15	86.30	86.93	8
26年	80.50	-	-	86.83	-	-

(資料:厚生労働省「完全生命表」、「都道府県別生命表」、「平成 26 年簡易生命表」)

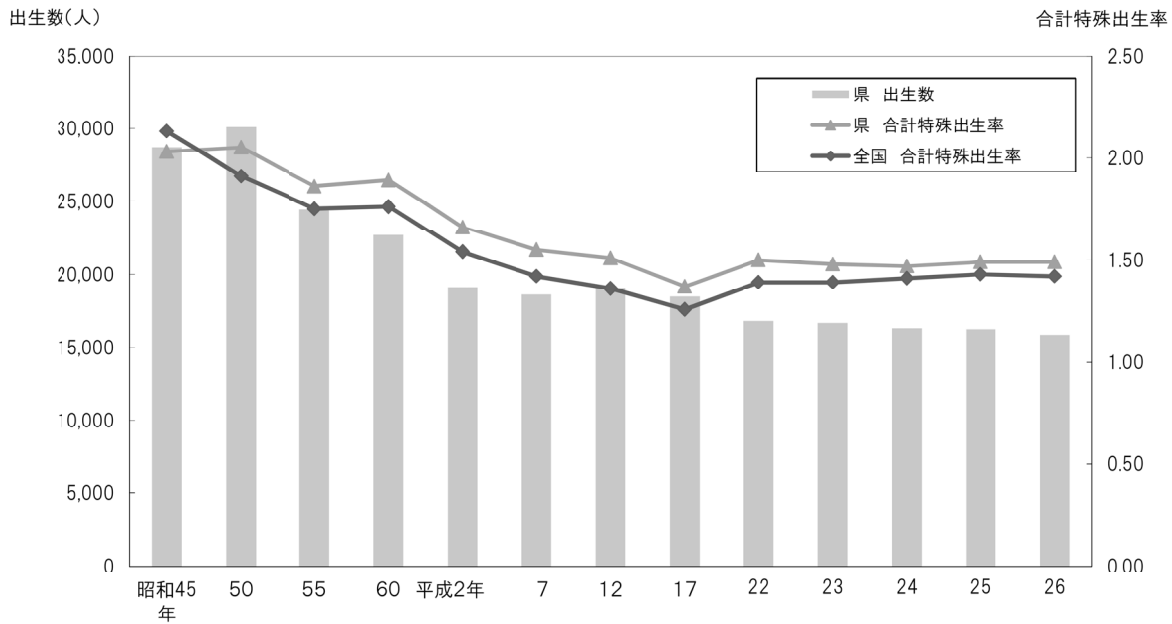
2 人口動態

(1)出生

平成26年の出生数は1万5,837人で、年次推移をみると、昭和50年を境に減少に転じ、近年においては多少の増減はあるものの緩やかな減少傾向となっています。

また、合計特殊出生率(1人の女性が一生の間に産む子供の数)は、平成26年では1.49(全国20位)と全国値の1.42を上回っています。

図表 2-1-2-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



(資料:厚生労働省「人口動態統計」)

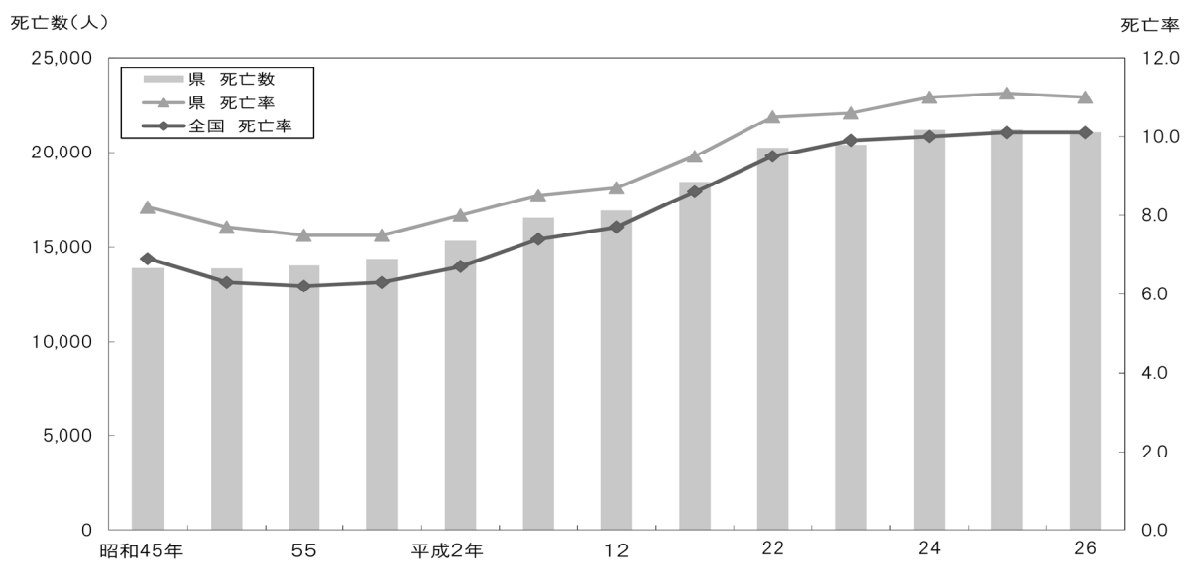
(2)死亡

ア 死亡数と死亡率の推移

死亡数の年次推移をみると、昭和50年代半ばから、人口の高齢化を反映してゆるやかな増加傾向にあります。

平成26年の死亡数は2万1,051人、死亡率(人口千対)は11.0(全国27位)で全国値の10.1と比べ0.9ポイント高くなっています。

図表 2-1-2-2 死亡数及び死亡率(人口千対)の年次推移



(資料:厚生労働省「人口動態統計」)

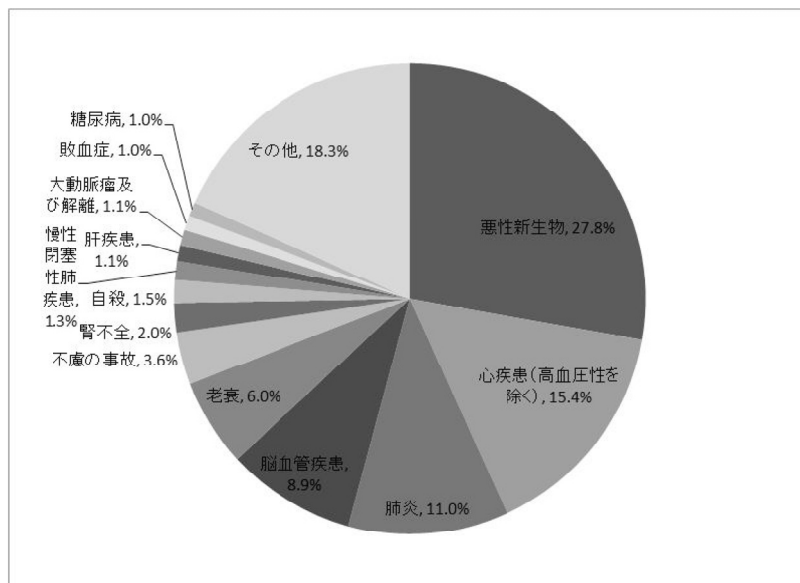
イ 主な死因別の死亡率

平成26年の主な死因別の割合をみると、図表 2-1-2-3 のようになっています。

主な死因別死亡率をみると、昭和57年から死亡順位の第1位になっている悪性新生物は、増加傾向が続いており、平成26年では人口10万対で306.9(死亡数5,852人)となっています。

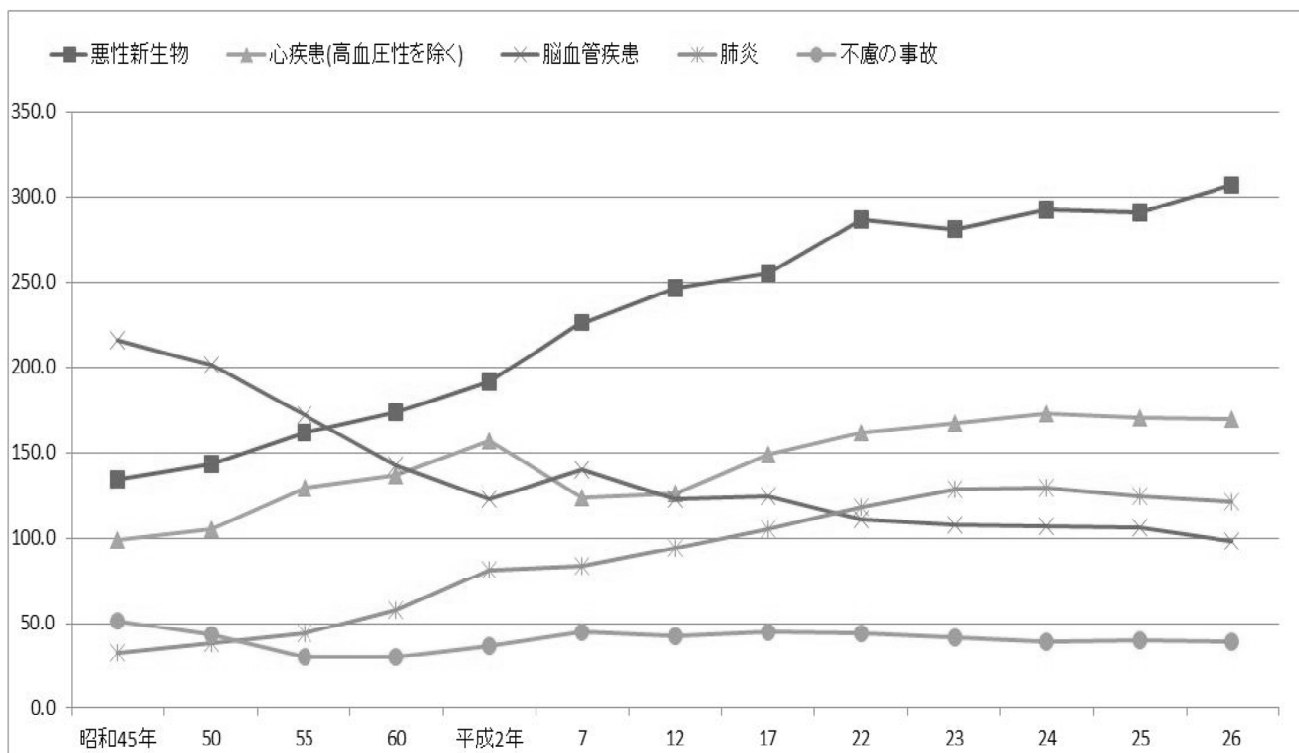
第2位は心疾患170.1(3,243人)、第3位は肺炎121.3(2,314人)で、平成21年から脳血管疾患と順位が入れ替わっています。

図表 2-1-2-3 平成26年 主な死因の内訳



(資料 厚生労働省「人口動態統計」)

図表 2-1-2-4 主な死因別の死亡率



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

ウ 標準化死亡比※

悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患並びに悪性新生物を部位別にみた標準化死亡比は図表 2-1-2-5 のとおりです。平成20年～24年で見ると、県全体では肝及び肝内胆管の悪性新生物及び急性心筋梗塞で全国値を上回っています。

図表 2-1-2-5 保健医療圏別の標準化死亡比(平成20年～24年)

二次保健医療圏	全死因		悪性新生物										心疾患				脳血管疾患		
			胃		大腸		肝及び肝内胆管		気管、気管支及び肺		急性心筋梗塞								
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
岡山県	97.3	94.8	93.1	90.1	87.1	93.8	77.8	78.2	105.5	108.1	99.1	86.9	91.6	93.2	121.2	118.6	99.2	96.4	
県南東部 保健医療圏	岡山市	95.8	93.7	95.5	91.8	87.6	94.0	81.5	79.3	114.5	98.8	102.5	93.3	95.7	90.3	118.3	119.4	92.4	97.1
	岡山市以外	99.5	98.5	95.2	91.4	83.8	98.0	64.1	74.1	109.6	115.4	106.3	94.2	94.0	99.9	128.1	128.9	92.2	87.4
県南西部 保健医療圏	倉敷市	96.2	94.7	93.6	92.1	90.0	94.7	81.2	86.8	100.2	95.7	101.5	90.0	82.8	90.4	115.0	103.8	112.8	102.4
	倉敷市以外	94.7	94.3	89.7	88.4	85.0	84.3	86.2	79.7	103.2	120.1	88.5	72.9	86.5	95.0	100.2	103.5	100.6	98.5
高梁・新見保健医療圏	96.1	92.3	86.1	82.9	85.4	90.0	64.8	70.1	91.9	110.7	84.0	72.1	99.8	99.0	161.0	151.4	83.3	86.5	
真庭保健医療圏	99.2	93.8	89.5	86.1	87.0	114.7	71.0	76.6	82.2	119.5	97.5	63.3	79.6	80.3	82.8	98.7	106.8	104.2	
津山・英田保健医療圏	103.9	95.5	92.2	87.4	87.1	93.5	74.6	67.3	102.4	126.2	97.3	86.9	100.4	97.1	151.5	138.3	103.5	94.3	

(資料:厚生労働省「平成20～24年人口動態統計特殊報告」)

※ 標準化死亡比(SMR)

死亡率を比較する場合、高齢人口の多い市町村では死亡数が大きくなり、その結果、死亡数を人口で単純に割る死亡率の算出方法では、死亡率はおのずと高くなります。

このような人口構成の違いによる死亡率の高低を補正する方法の一つとして、「標準化死亡比(SMR)」があります。

この指標は、それぞれの地域の年齢階級別人口と全国の年齢階級別死亡率により算出されたそれぞれの地域の期待死亡数に対するその地域の実際の死亡数の比を示したものです。

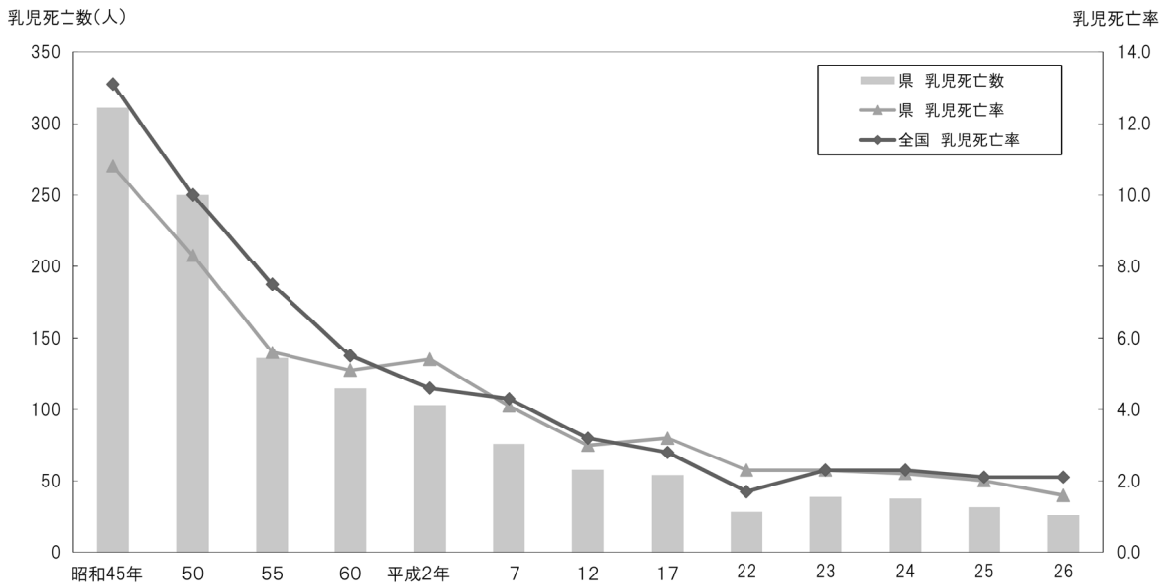
各保健医療圏のSMRが100より大きい場合は全国の死亡率より高く、100より小さい場合は全国の死亡率より低いことを示します。

(3)乳児死亡

乳児死亡(生後1年未満の死亡)数及び乳児死亡率(出生千対)並びに新生児死亡(生後28日未満の死亡)数及び新生児死亡率(出生千対)の年次推移は、図表 2-1-2-6、図表 2-1-2-7 のとおりです。

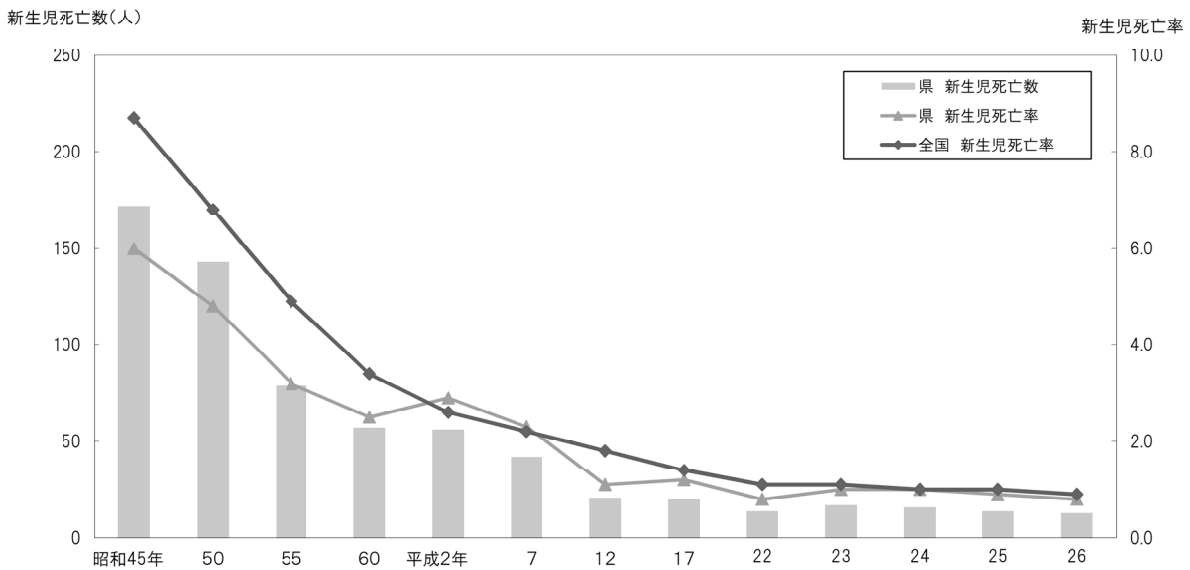
平成26年の乳児死亡数は26人、乳児死亡率は1.6(全国40位)で全国値の2.1と比べ0.5ポイント低くなっています。また、新生児死亡数は13人、新生児死亡率(出生千対)は0.8(全国29位)で全国値の0.9と比べ0.1ポイント低くなっています。

図表 2-1-2-6 乳児死亡数及び乳児死亡率(出生千対)の年次推移



(資料:厚生労働省「人口動態統計」)

図表 2-1-2-7 新生児死亡数及び新生児死亡率(出生千対)の年次推移



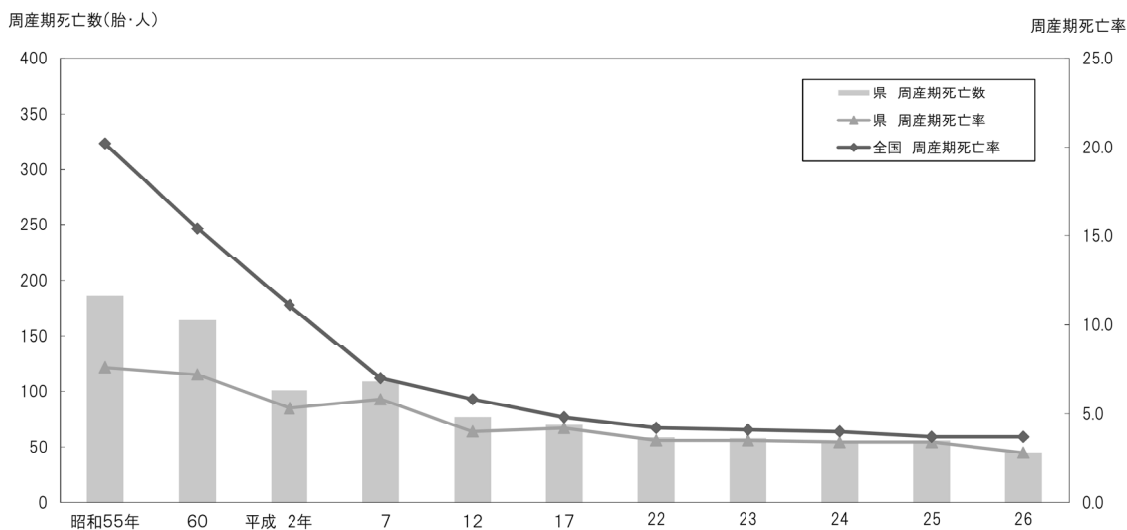
(資料:厚生労働省「人口動態統計」)

(4) 周産期死亡

周産期死亡(妊娠満22週以後の死産と生後7日未満の早期新生児死亡を合わせたもの)数及び周産期死亡率(出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対)の年次推移は図表 2-1-2-8 のとおりで、平成12年頃までは減少傾向にありましたが、以後ほぼ横ばい傾向になっています。

平成26年の周産期死亡数は45、周産期死亡率は2.8(全国43位)で全国値の3.7と比べ、0.9ポイント低くなっています。

図表 2-1-2-8 周産期死亡数及び周産期死亡率(出生千対)の年次推移



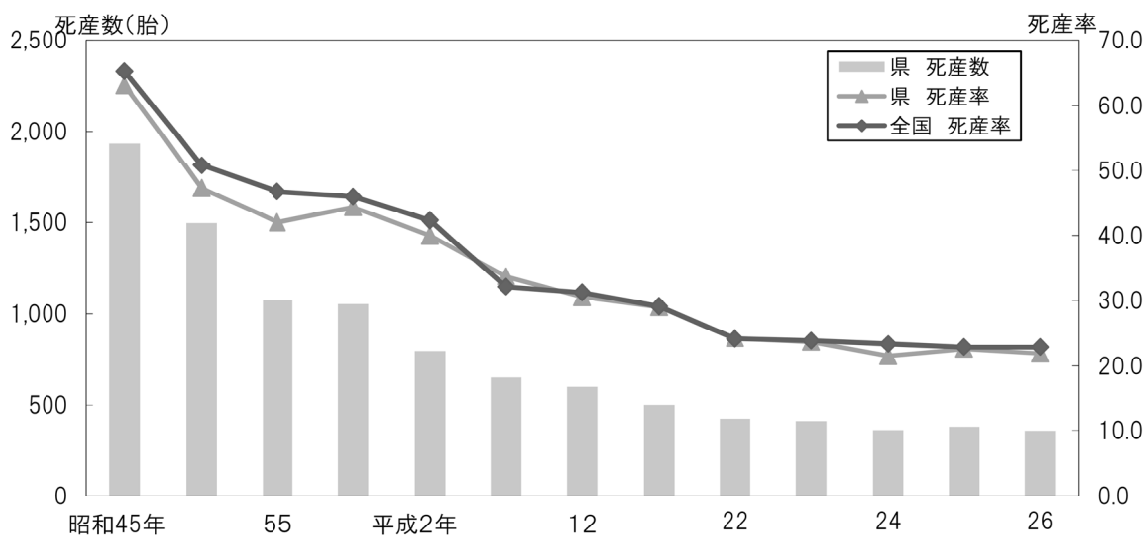
(資料:厚生労働省「人口動態統計」)

(5)死産

死産(妊娠満12週以後の死児の出産)数及び死産率(出産(出生+死産)千対)の年次推移は、図表 2-1-2-9 のとおりで、平成7年までの減少傾向と比べると、多少の増減はあるものの、以後は緩やかな減少傾向になっています。

平成26年の死産数は354胎、死産率は21.9(全国31位)で、全国値の22.9と比べ1.0ポイント低くなっています。

図表 2-1-2-9 死産数及び死産率(出生千対)の年次推移



(資料:厚生労働省「人口動態統計」)

1 医療施設

(1) 病院

平成26年10月1日現在の本県の病院数は167施設、人口10万対では8.7施設で全国値の6.7施設を上回っています。

病院の種別では、全病院数の89.8%にあたる150施設が一般病院で、17施設が精神科病院です。

また、病床数は29,088床、人口10万対は1,511.9床で全国値の1,234.0床を上回っています。

病床の種類別では、一般病床、精神病床、結核病床の人口10万対病床数が全国値を上回っています。

図表 2-2-1-1 病院施設数及び病院病床数(平成26年10月1日現在)

二次保健医療圏	病院施設数			病院病床数	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
	一般病院	精神科病院							
県南東部保健医療圏	78	71	7	14,855	9,850	1,654	3,257	86	8
	8.5	7.7	0.8	1,617.0	1,072.2	180.0	354.5	9.4	0.9
県南西部保健医療圏	55	49	6	9,836	6,514	1,892	1,395	25	10
	7.7	6.9	0.8	1,384.3	916.8	266.3	196.3	3.5	1.4
高梁・新見保健医療圏	9	8	1	1,023	434	349	240	-	-
	13.9	12.3	1.5	1,578.0	669.4	538.3	370.2	-	-
真庭保健医療圏	7	6	1	847	425	222	200	-	-
	14.8	12.7	2.1	1,789.8	898.1	469.1	422.6	-	-
津山・英田保健医療圏	18	16	2	2,527	1,146	737	606	30	8
	9.8	8.7	1.1	1,379.4	625.6	402.3	330.8	16.4	4.4
合計	167	150	17	29,088	18,369	4,854	5,698	141	26
	8.7	7.8	0.9	1,511.9	954.7	252.3	296.2	7.3	1.4
全国	8,493	7,426	1,067	1,568,261	894,216	328,144	338,174	5,949	1,778
	6.7	5.8	0.8	1,234.0	703.6	258.2	266.1	4.7	1.4

(資料:厚生労働省「平成26年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

(備考:上段は実数、下段は人口10万対)

(2)一般診療所

平成26年10月1日現在の本県の一般診療所数は1,653施設、人口10万対は85.9施設で全国値の79.1施設を上回っています。

病床数は2,513床、人口10万対は130.6床で全国値の88.4床を上回っています。

(3)歯科診療所

平成26年10月1日現在の本県の歯科診療所数は990施設、人口10万対は51.5施設で全国値の54.0施設を下回っています。

図表 2-2-1-2 診療所施設数及び診療所病床数(平成26年10月1日現在)

二次保健医療圏	一般診療所			歯科診療所
	施設数	病床数	うち療養病床数	施設数
県南東部保健医療圏	868	1,184	205	531
	94.5	128.9	22.3	57.8
県南西部保健医療圏	510	823	143	333
	71.8	115.8	20.1	46.9
高梁・新見保健医療圏	66	63	11	23
	101.8	97.2	17.0	35.5
真庭保健医療圏	44	82	4	22
	93.0	173.3	8.5	46.5
津山・英田保健医療圏	165	361	56	81
	90.1	197.1	30.6	44.2
合 計	1,653	2,513	419	990
	85.9	130.6	21.8	51.5
全 国	100,461	112,364	11,410	68,592
	79.1	88.4	9.0	54.0

(資料:厚生労働省「平成26年医療施設調査」、岡山県毎月流動人口調査)

(備考:上段は実数、下段は人口10万対)

(4) 診療科目

平成25年の県内の診療科目別にみた病院及び一般診療所数(重複計上)は図表 2-2-1-3 のとおりです。

図表 2-2-1-3 保健医療圏別、診療科目別に見た病院及び一般診療所数(重複計上)(平成25年10月1日現在)

区分	施設数	診療科目																					
		内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科(胃)	腎臓内科	神経内科	糖尿病内科(代)	血液内科	皮膚科	アレルギー科	リウマチ科	感染症内科	小児科	精神科	心療内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科	乳癌外科	気管食道外科	消化器外科(胃)	
病院	県南東部保健医療圏	80	69	18	32	33	5	19	3	—	30	5	10	—	23	27	9	48	4	9	3	—	15
	県南西部保健医療圏	56	51	17	27	26	6	16	5	4	22	5	11	—	22	13	4	38	5	3	4	1	12
	高梁・新見保健医療圏	9	7	1	4	2	1	—	2	1	3	—	3	—	3	2	2	5	1	—	—	—	2
	真庭保健医療圏	7	6	3	3	2	1	2	1	—	4	2	1	—	1	1	1	6	—	1	1	—	3
	津山・英田保健医療圏	18	16	4	5	7	3	4	4	1	4	—	—	1	6	3	2	10	2	4	1	1	3
	合計	170	149	43	71	70	16	41	15	6	63	12	25	1	55	46	18	107	12	17	9	2	35
一般診療所	県南東部保健医療圏	860	529	72	92	137	17	16	23	3	81	56	36	5	175	57	35	104	—	2	3	—	14
	県南西部保健医療圏	504	316	38	54	78	5	9	10	1	36	27	26	—	128	25	20	55	—	—	—	3	12
	高梁・新見保健医療圏	67	58	—	—	3	1	3	—	—	2	—	1	—	17	4	1	10	—	—	—	—	—
	真庭保健医療圏	42	35	1	4	6	—	—	—	—	2	—	2	—	10	1	—	11	—	—	—	—	—
	津山・英田保健医療圏	165	125	10	17	23	1	2	2	—	9	5	3	—	32	9	5	19	—	—	—	1	—
	合計	1,638	1,063	121	167	247	24	30	35	4	130	88	68	5	362	96	61	199	—	2	3	4	26
区分	泌尿器科	肛門外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	美容外科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	産婦人科	産科	婦人科	シリハビリンテ科	放射線科	麻酔科	病理診断科	臨床検査科	救急科	歯科	矯正歯科	小児歯科	歯科口腔外科	
																							泌尿器科
病院	県南東部保健医療圏	28	9	22	44	14	2	28	17	2	11	2	12	45	34	32	4	3	6	20	1	2	2
	県南西部保健医療圏	20	13	20	35	10	3	17	17	1	8	1	6	32	26	24	1	1	3	15	3	2	6
	高梁・新見保健医療圏	3	1	3	6	2	—	3	2	—	—	—	2	6	5	2	—	—	—	—	—	—	—
	真庭保健医療圏	2	4	5	6	1	—	4	1	—	1	—	2	5	3	4	—	—	—	—	—	—	—
	津山・英田保健医療圏	4	2	6	8	2	—	3	5	1	2	—	—	10	9	3	—	—	—	3	—	—	1
	合計	57	29	56	99	29	5	55	42	4	22	3	22	98	77	65	5	4	9	38	4	4	9
一般診療所	県南東部保健医療圏	25	17	12	104	14	8	63	55	3	27	1	13	106	69	18	—	—	—	20	1	2	2
	県南西部保健医療圏	14	8	9	62	5	3	45	34	1	15	3	4	86	45	7	—	—	—	5	1	1	1
	高梁・新見保健医療圏	—	—	1	1	—	—	4	2	—	2	—	—	4	2	—	—	—	—	3	2	2	1
	真庭保健医療圏	2	3	2	10	1	1	3	2	—	—	—	—	5	2	—	—	—	—	2	—	—	—
	津山・英田保健医療圏	3	3	1	19	3	1	9	5	1	5	—	—	9	4	8	—	—	—	3	—	1	—
	合計	44	31	25	196	23	13	124	98	5	49	4	17	210	122	33	—	—	—	33	4	6	4

(資料:厚生労働省「平成25年医療施設調査」)

2 保健関係施設

(1) 市町村保健センター

市町村保健センターは、全県で65カ所設置されており、市町村が設置する地域保健活動の拠点施設として位置付けられており、生活習慣病対策や母子保健事業等の対人保健サービスを行っています。

図表 2-2-2-1 市町村保健センター設置数

(平成27年4月1日現在)

保健医療圏	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
市町村保健センター	15	15	9	7	18	64

(資料:岡山県保健福祉課)

(2)保健所

保健所は、県内に県保健所が5カ所、政令指定都市である岡山市及び中核市である倉敷市に市保健所がそれぞれ1カ所設置されています。

保健所では、感染症対策、精神保健、難病など広域的で専門的な対人保健サービスや、医薬、食品衛生、生活衛生施策などを行っています。また、これらに加え、市保健所では、母子健康相談、一般栄養相談、乳幼児健康診査、歯科相談なども行っています。

図表 2-2-2-2 保健所設置数(平成 27 年 4 月 1 日現在)

保健医療圏	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
県保健所	1	1	1	1	1	5
市保健所	1	1	0	0	0	2

(3)その他の施設

名称	施設の概要
岡山県精神保健福祉センター 岡山市こころの健康センター	精神保健及び精神障害のある人の福祉に関する総合的な技術的中核機関として、知識の普及、調査研究や相談指導事業を行うとともに、保健所等に対する技術支援を行っています。
岡山県環境保健センター	試験研究・検査業務の技術的中核機関として、保健衛生、環境行政上必要となる検査や、調査研究を行うほか、保健所等の技術職員に対する研修指導も行っています。
岡山県南部健康づくりセンター	健康づくりの専門的な拠点施設として主に生活習慣病のリスク保有者、生活習慣病患者、高齢者等を対象にメディカルチェック、ヘルスチェックを行い、センター内の設備を使って専門的な健康づくり指導を行っています。
岡山県動物愛護センター	動物行政の拠点施設として、狂犬病予防業務や動物取扱業者等の指導を行うとともに、犬のしつけ方教室や動物ふれあい教室、譲渡事業等も実施し、動物愛護思想の普及啓発を行っています。

3 保健医療従事者

(1) 医師、歯科医師、薬剤師

平成26年12月31日現在の本県の医師・歯科医師・薬剤師数は図表 2-2-3-1 のとおりです。人口10万対のそれぞれの人数を全国値と比較してみると、医師・歯科医師は299.4人と89.1人で全国値を上回っていますが、薬剤師は204.6人で、全国値を下回っています。

図表 2-2-3-1 医師、歯科医師、薬剤師数(登録者数)(平成26年12月31日現在)

二次保健医療圏	医師	歯科医師	薬剤師
県南東部保健医療圏	3,190	1,063	2,251
	347.2	115.7	245.0
県南西部保健医療圏	2,012	479	1,194
	283.2	67.4	168.0
高梁・新見保健医療圏	99	37	105
	152.7	57.1	162.0
真庭保健医療圏	76	26	70
	160.6	54.9	147.9
津山・英田保健医療圏	383	110	317
	209.1	60.0	173.0
合 計	5,760	1,715	3,937
	299.4	89.1	204.6
全 国	311,205	103,972	288,151
	244.9	81.8	226.7

(資料:厚生労働省「平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

(備考:上段は実数、下段は人口10万対)

(2) 保健師、助産師、看護師、准看護師

平成25年12月31日現在の本県の保健師、助産師、看護師、准看護師数は図表 2-2-3-2 のとおりです。人口10万対のそれぞれの人数を全国値と比較してみると、助産師数、准看護師数が全国値を下回っています。

図表 2-2-3-2 保健師、助産師、看護師、准看護師数(従事者数)(平成26年12月31日現在)

二次保健医療圏	保健師	助産師	看護師	准看護師
県南東部保健医療圏	428	241	10,624	2,272
	46.6	26.2	1,156.4	247.3
県南西部保健医療圏	276	163	7,286	1,807
	38.8	22.9	1,025.4	254.3
高梁・新見保健医療圏	64	4	560	292
	98.7	6.2	863.8	450.4
真庭保健医療圏	42	10	533	132
	88.8	21.1	1,126.3	278.9
津山・英田保健医療圏	126	35	1,923	616
	68.8	19.1	1,049.7	336.3
合 計	936	453	20,926	5,119
	48.6	23.5	1,087.6	266.1
全 国	48,452	33,956	1,086,779	340,153
	38.1	26.7	855.2	267.7

(資料:衛生行政報告例、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

(備考:上段は実数、下段は人口10万対)

1-3

岡山県の保健医療の現状 ～受療の状況～

1 県内の患者数及び受療率

(1) 推移

県内の推計患者数(「患者調査」の調査日1日当たり)の推移をみると、平成23年時点に比べ平成26年では入院患者が1.5千人の減、外来患者が15.3千人の増となっています。

図表 2-3-1-1 県内推計患者数の推移

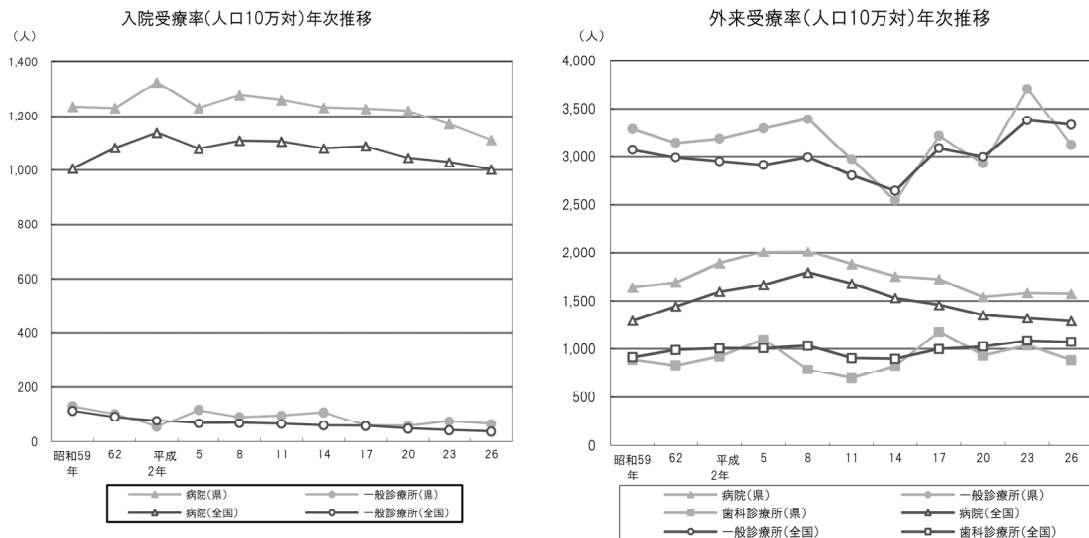
	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一般診療所	総 数	病 院	一般診療所	歯科診療所
昭和59年	25.9	23.5	2.5	110.7	31.3	62.5	16.9
62年	25.6	23.7	2.0	109.3	32.7	60.6	16.0
平成 2年	26.5	25.5	1.0	115.6	36.4	61.4	17.8
5年	26.1	23.8	2.2	123.8	38.9	63.8	21.2
8年	26.7	24.9	1.8	120.8	39.2	66.2	15.4
11年	26.5	24.7	1.9	108.6	36.8	58.2	13.6
14年	26.1	24.0	2.1	100.2	34.3	49.7	16.2
17年	25.1	24.0	1.1	119.8	33.8	63.0	23.0
20年	24.8	23.8	1.1	105.3	30.1	57.0	18.2
23年	24.1	22.7	1.4	122.8	30.8	71.9	20.1
26年	22.6	21.4	1.2	107.5	30.3	60.1	17.1

(資料:

厚生労働省「患者調査」)

全国と本県の入院、外来の受療率(人口10万人に対する推計患者数)の推移をみると、本県の受療率は、病院においては入院受療率、外来受療率とも、全国値を上回っています。

図表 2-3-1-2 受療率の推移



(資料:厚生労働省「患者調査」)

(2) 傷病分類別の受療率及び患者数

平成26年調査による全国及び県内の患者の受療率(人口10万対)及び県内の推計患者数を傷病の種類別に示すと図表 2-3-1-3 のとおりです。

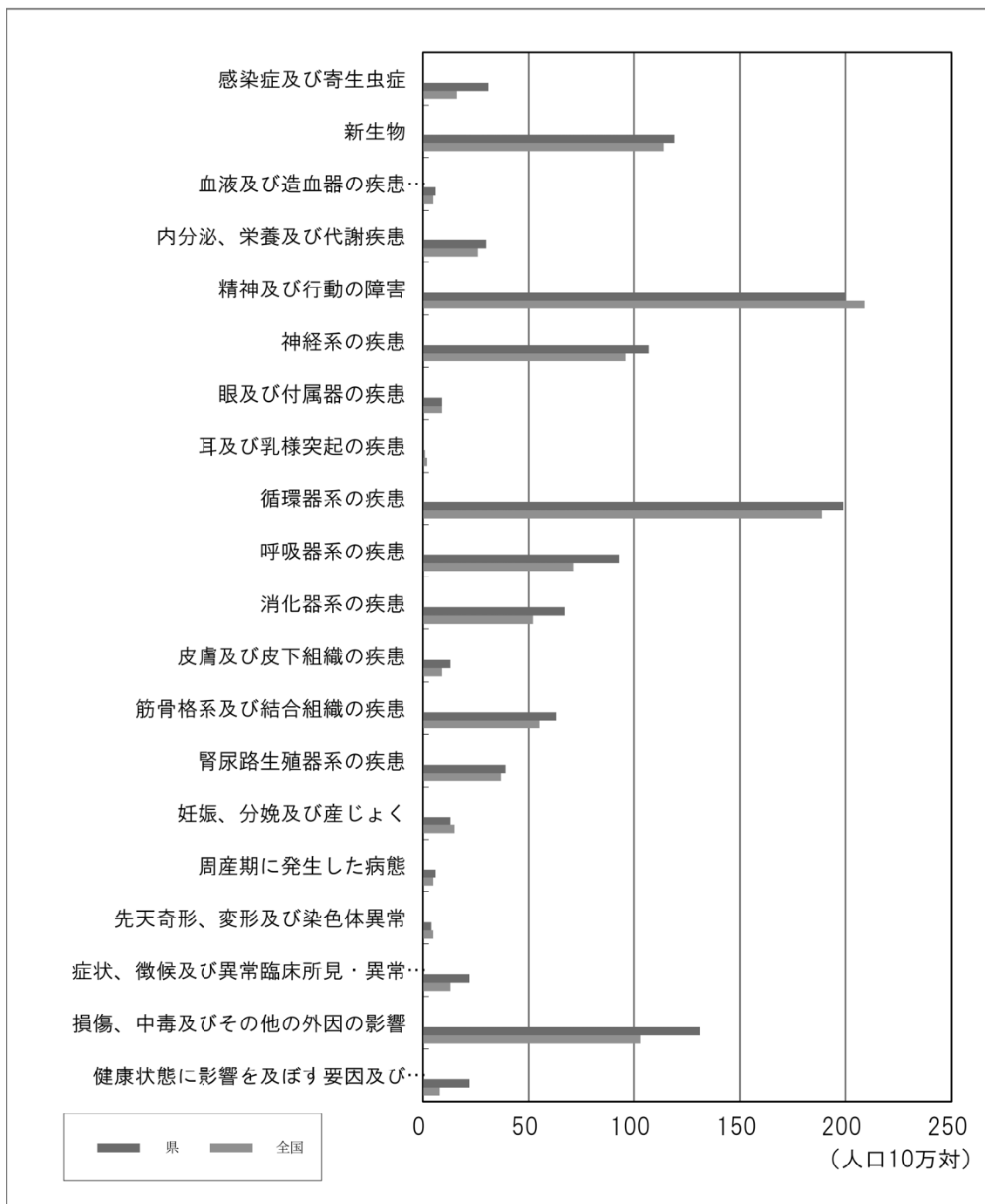
図表 2-3-1-3 傷病分類別の受療率と推計患者数

傷病分類	全国受療率		県内受療率		県内推計患者数	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数	1,038	5,696	1,176	5,588	22,600	107,500
・ 感染症及び寄生虫症	16	136	31	127	600	2,400
腸管感染症	(再掲) 3	24	5	26	100	500
結核	(再掲) 3	1	3	1	100	0
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	(再掲) 1	46	2	29	0	600
真菌症	(再掲) 1	27	1	24	0	500
・ 新生物	114	182	119	180	2,300	3,500
悪性新生物	(再掲) 102	135	107	140	2,100	2,700
胃の悪性新生物	(再掲) 11	15	12	17	200	300
結腸及び直腸の悪性新生物	(再掲) 15	22	15	31	300	600
気管、気管支及び肺の悪性新生物	(再掲) 15	13	19	12	400	200
・ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	17	6	25	100	500
・ 内分泌、栄養及び代謝疾患	26	344	30	347	600	6,700
甲状腺障害	(再掲) 1	31	0	21	0	400
糖尿病	(再掲) 16	175	20	189	400	3,600
・ 精神及び行動の障害	209	203	200	267	3,800	5,100
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	(再掲) 130	55	117	67	2,300	1,300
気分[感情]障害躁うつ病を含む	(再掲) 23	66	24	79	500	1,500
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	(再掲) 4	42	5	59	100	1,100
・ 神経系の疾患	96	136	107	114	2,100	2,200
・ 眼及び付属器の疾患	9	266	9	237	200	4,600
白内障	(再掲) 6	61	6	51	100	1,000
・ 耳及び乳様突起の疾患	2	79	1	93	0	1,800
・ 循環器系の疾患	189	734	199	774	3,800	14,900
高血圧性疾患	(再掲) 5	528	5	498	100	9,600
心疾患高血圧性のものを除く	(再掲) 47	105	60	154	1,200	3,000
虚血性心疾患	(再掲) 12	47	11	64	200	1,200
脳血管疾患	(再掲) 125	74	117	68	2,300	1,300
・ 呼吸器系の疾患	71	526	93	562	1,800	10,800
急性上気道感染症	(再掲) 1	195	1	207	0	4,000
肺炎	(再掲) 27	6	34	4	700	100
急性気管支炎及び急性細気管支炎	(再掲) 2	80	2	73	0	1,400
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	(再掲) 7	25	5	32	100	600
喘息	(再掲) 3	100	4	103	100	2,000
・ 消化器系の疾患	52	1,031	67	1,016	1,300	19,500
う蝕	(再掲) 0	223	-	235	0	4,500
歯肉炎及び歯周疾患	(再掲) 0	350	-	320	0	6,200
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	(再掲) 3	24	5	14	100	300
胃炎及び十二指腸炎	(再掲) 0	58	1	65	0	1,300
肝疾患	(再掲) 6	26	9	53	200	1,000
・ 皮膚及び皮下組織の疾患	9	226	13	151	300	2,900
・ 筋骨格系及び結合組織の疾患	55	691	63	616	1,200	11,900
炎症性多発性関節障害	(再掲) 4	39	5	36	100	700
関節症	(再掲) 12	153	16	160	300	3,100
脊柱障害	(再掲) 21	358	21	297	400	5,700
骨の密度及び構造の障害	(再掲) 2	44	2	26	0	500
・ 腎尿路生殖器系の疾患	37	223	39	223	700	4,300
糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全	(再掲) 26	93	27	124	500	2,400
前立腺肥大症	(再掲) 1	27	1	17	0	300
乳房及び女性生殖器の疾患	(再掲) 2	63	2	57	0	1,100
・ 妊娠、分娩及び産じょく	15	11	13	11	300	200
妊娠高血圧症候群	(再掲) 0	0	1	0	0	0
・ 周産期に発生した病態	5	2	6	3	100	0
・ 先天奇形、変形及び染色体異常	5	11	4	6	100	100
・ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13	61	22	74	400	1,400
・ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	103	241	131	261	2,500	5,000
骨折	(再掲) 72	72	88	64	1,700	1,200
・ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	576	22	500	400	9,600
歯の補てつ	(再掲) 0	241	-	192	0	3,700

ア 入院受療率

人口10万人当たりの傷病分類別の入院受療率(全国、県)の状況は図表 2-3-1-4 のとおりです。「精神及び行動の障害」「循環器系の疾患」の受療率が高く、全国と比較した場合、ほとんどの疾病で全国値を上回っています。

図表 2-3-1-4 入院受療率

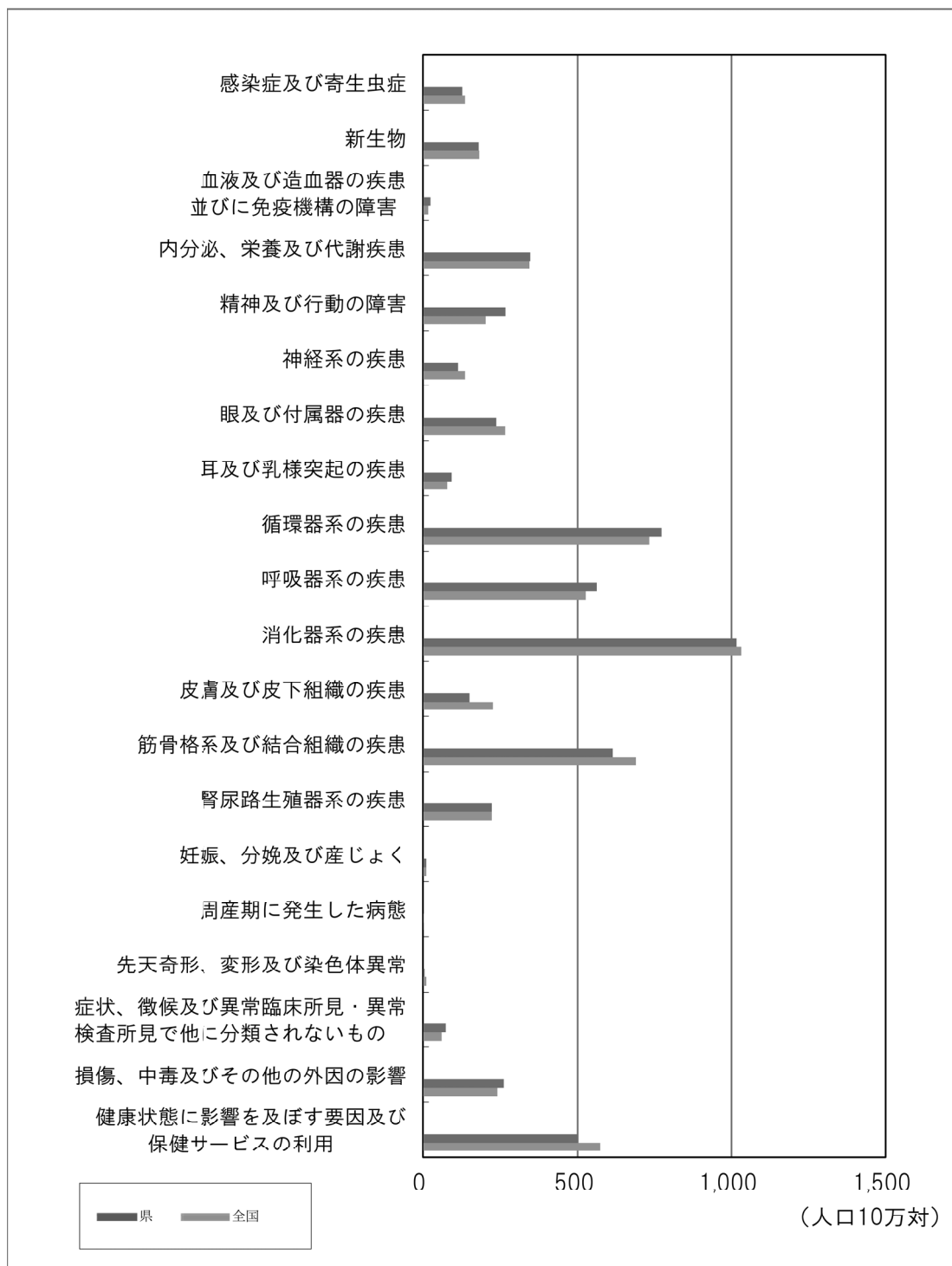


(資料:厚生労働省「平成26年患者調査」)

イ 外来受療率

人口10万人当たりの傷病分類別の外来受療率(全国、県)の状況は図表 2-3-1-5 のとおりです。「消化器系の疾患」(歯科含む)や「循環器系の疾患」が全国同様高くなっています。

図表 2-3-1-5 外来受療率

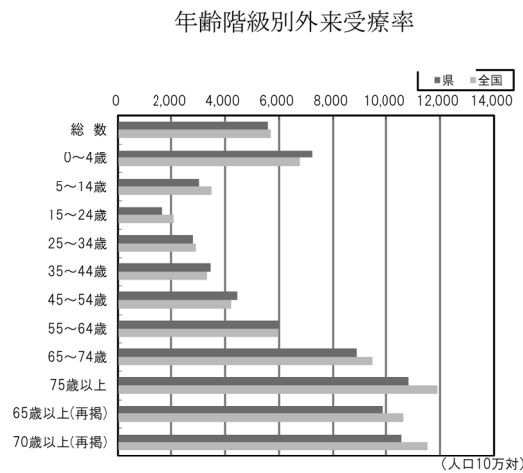
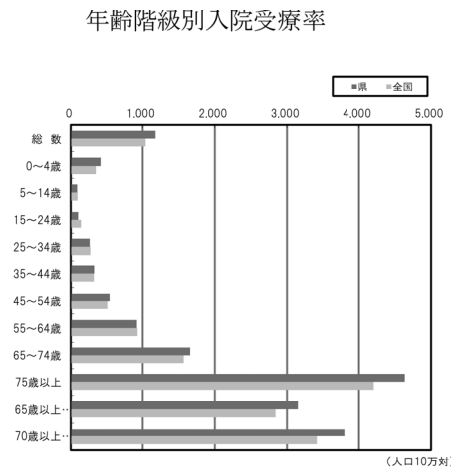


(資料:厚生労働省「平成26年患者調査」)

(3) 年齢階級別の受療率

県内の受療率を年齢階級別にみると、入院では5～14歳で最も低くなり、以降年齢が高くなるほど受療率も高くなっています。また、外来では、乳幼児期の受療が多く、0～4歳の受療率は、全国値の1.33倍となっています。15～24歳で最も低くなり、以降年齢が高くなるほど受療率も高くなっています。

図表 2-3-1-6 年齢階級別の受療率



(資料:厚生労働省「平成26年患者調査」)

2 地域別の受療動向(入院患者)

県内の病院(一般病床、療養病床)等に入院している患者の住所地別に、どこの保健医療圏で受療しているかを示す割合は、図表 2-3-2-1 のとおりです。

平成27年調査では、県南の2保健医療圏において自圏内での受療がともに90%を超えています。津山・英田で83.36%、真庭で72.92%、最も低い高梁・新見では62.31%となっており、県北から県南への患者の流出が見られます。

図表 2-3-2-1 入院患者の受療動向(一般病床及び療養病床)

<平成27年>

(単位:%)

所在地 受療地	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	県外
県南東部保健医療圏	90.26	5.79	12.95	14.58	11.85	59.07
県南西部保健医療圏	8.27	94.03	20.81	6.25	3.00	36.27
高梁・新見保健医療圏	0.48	0.15	62.31	0.57	0.05	0.93
真庭保健医療圏	0.12	0.00	3.70	72.92	1.74	0.53
津山・英田保健医療圏	0.86	0.03	0.23	5.68	83.36	3.20
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(資料:岡山県医療推進課「平成27年患者調査」)

<平成22年>

(単位:%)

所在地 受療地	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	県外
県南東部保健医療圏	92.43	6.64	11.63	12.62	11.46	56.44
県南西部保健医療圏	7.03	93.25	17.14	5.43	3.99	39.82
高梁・新見保健医療圏	0.13	0.08	67.35	0.00	0.00	0.39
真庭保健医療圏	0.13	0.02	3.57	74.92	3.05	0.52
津山・英田保健医療圏	0.29	0.02	0.31	7.03	81.50	2.84
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(資料:岡山県医療推進課「平成22年患者調査」)

(注)住所不詳を除く。

単位未満を四捨五入しているため、計と内訳の和が一致しない場合がある。

3 地域別の病床利用率・平均在院日数

平成26年の病床利用率及び平均在院日数は図表 2-3-3-1 のとおりです。

都道府県別に病床利用率を見ると図表 2-3-3-2 のとおりで、岡山県が74.7%に対し、全国が80.3%となっています。

都道府県別に平均在院日数を見ると図表 2-3-3-3 のとおりで、全病床では岡山県が28.8日に対し全国が29.5日となっています。

図表 2-3-3-1 平成26年の病床利用率及び平均在院日数の状況

二次保健医療圏	病床利用率(%)				平均在院日数(日)			
	総数	一般病床	療養病床	精神病床	総数	一般病床	療養病床	精神病床
県南東部保健医療圏	69.6	64.9	86.9		28.5	18.6	150.7	
県南西部保健医療圏	77.5	75.6	84.3		26.2	17.7	119.5	
高梁・新見保健医療圏	85.5	81.0	84.0		45.5	20.1	123.2	
真庭保健医療圏	79.6	77.2	84.1		33.8	18.4	76.4	
津山・英田保健医療圏	87.2	85.6	90.9		35.8	17.6	130.4	
岡山県	74.7	70.7	86.2	80.7	28.8	18.2	127.2	236.5
全 国	80.3	74.8	89.4	88.5	29.9	16.8	164.6	281.2

(資料:厚生労働省「平成26年病院報告」)

図表 2-3-3-2 都道府県別病床利用率 (単位:%)

